2,026筆の請願否決！

中央公園グラウンド改修はどうなるのか？

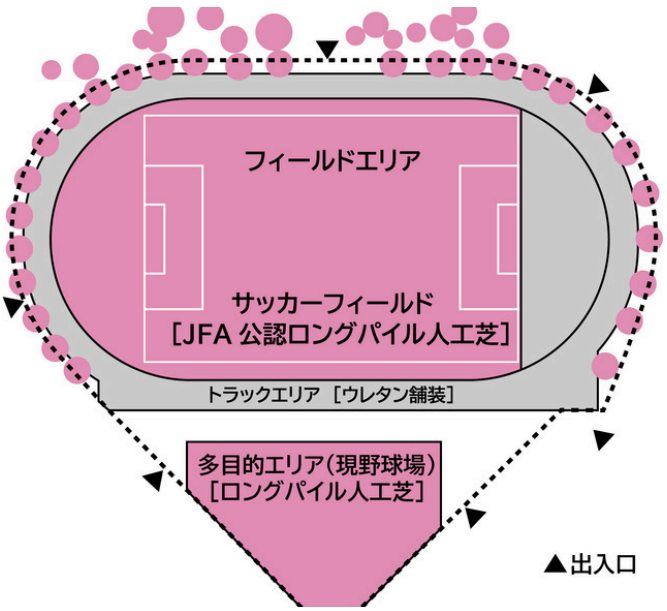
私たちは6月の小平市議会に請願**「中央公園グラウンド改修計画について意見を聞く機会を設けることと多目的エリアの人工芝化見直しを求めることについて」**を提出しましたが、残念ながら8月末の生活文教委員会でも、9月9日の本会議でも請願は否決されました。

委員会の傍聴席には入りきれないぐらいの市民が詰めかけ、最終的に署名は2,026筆も集まりました。鷹の台駅前や中央公園周辺で行った街頭宣伝、署名活動でも、グラウンドが現在の野球場まで含めて人工芝になること、グラウンド周囲への柵の設置によりこれまでのように自由に使えなくなることについて、心配や反発の声がたくさん聞かれました。

請願への賛否（議員数）

賛成 9人
日本共産党小平市議団（3）
一人会派と維新の会（2）
生活者ネットワーク（2）
まちづくり市民こだいら（1）
市議会れいわ新選組（1）

反対18人
自民党小平政和会（6）
市議会公明党（6）
一人会派と維新の会（1）
フォーラム小平（立憲系）（5）



10月12日はオープンハウスへ！

今年度は、まだ中央公園グラウンド改修の設計段階です。私たちが求めてきた再度の説明会、意見交換会は拒否されましたが、来たる10月12日(日)に中央公園で開かれる市民スポーツまつりでは、中央公園グラウンド改修に関するオープンハウスが設けられ、それが市民の意見を聞く最後の機会となるそうです。

7月のオープンハウスでは、「中央公園グラウンドでなにがしたい？投票」で、「遊ぶ」「食べる」「休む」「運動する」のコーナー別にやりたいことを付箋に書いて貼り付けさせていました。口頭で意見を言うだけでは無視されてしまうようなので、「人工芝ではなく天然芝の上で遊びたい、休みたい」「早朝ランニングしたい」など付箋に書いて貼りましょう。SNSにアップするのもいいですね。

中央公園グラウンド改修のオープンハウス@市民スポーツまつり
日時：10月12日（日）9:30-15:00
場所：市民総合体育館 ロビー

オープンハウスで、直接、文化スポーツ課やパークコネクトグループ（公園の改修・管理を委託された民間事業者）の担当者に意見や疑問をぶつけてみましょう！ 参加できない方は小平市文化スポーツ課（042-346-9612）にお電話を。

多くの市民が声を上げれば、利用方法の改善は可能です。人工芝化についても、将来の見直しのために、あきらめずに声を届け続けましょう。

発行：2025年10月6日
中央公園グラウンド改修に市民の声を届ける会
（中央公園LOVERS🍀）
Tel:080-5372-4084（深澤）
Email:kodaira_kankyo@jcom.zaq.ne.jp

議員の質問、市の答弁 ➡ 私たちはこう考えます

1. 中央公園グラウンドの多目的エリアは「誰もが使える、憩いの場」ではなくて、あくまで競技施設であり、鷹の台公園と役割分担することを市民に周知すべき（議員の質問）

市は中央公園グラウンド改修の基本方針を「市民の誰もが気軽にスポーツを楽しめるグラウンド」としている（2025年2月説明会）。また、7月のオープンハウスでは、多目的エリアでは「野球やソフトボールの練習だけではなく、ニュースポーツや幼児の遊び場としても利用することができます」とし、「遊ぶ」「食べる」「休む」「運動する」の4つのジャンルでやってみたいことを付箋に書かせた。

議員の発言を追認した市の答弁は、これまでの改修方針と矛盾しているのではないか？

2. オープンハウスでは300人以上の市民意見を聞き、ホームページで公開（市の答弁）

市はオープンハウスでの合計300人以上の市民意見のほとんどがうれしい、楽しみにしているというものだったと答弁した。オープンハウスでの意見聴取は上記1で紹介したように限定的なテーマで運営面についてのみ聞くものだった。人工芝化反対の意見や問題点の指摘はあったが、ホームページには一切掲載されていない。市民意見の集め方、公表の仕方が公平性に欠け、問題がある。

3. 近隣自治体の人工芝グラウンド等で健康被害が生じた事例はあるのか？（議員の質問）

身近で明らかな健康被害が生じた例は見当たらないが、たとえば、2023年、米フィラデルフィアの大リーグで40-50代の６人の選手が脳腫瘍で死亡したのは、本拠地スタジアムの人工芝が原因ではないかと地元紙が報じている。スタジアムの人工芝からは、PFOSを含む16種類のPFAS（有機フッ素化合物）が検出された。

日本ではすでにPFOS・PFOAの製造・輸入が原則禁止されているが、今年、新品の人工芝を分析したところ、PFOS・PFOAを高濃度に含む製品が見つかった。健康被害は判明するまでに長い年月がかかる。有害性が指摘された物質を含む人工芝の利用は、予防原則に立って避けるべきではないか。人工芝はマイクロプラスチックの大きな発生源でもあるが、マイクロプラスチックの健康被害についても近年多くの研究がある。

4. 市民の環境への懸念に配慮し、マイクロプラスチック流出対策として排水溝フィルターを設置し、多目的エリアにはCO2排出対策としてバイオターフ、熱中症対策としてカラーチップを入れる（市の答弁）

バイオターフの植物由来原料は全体の1/4に過ぎず、生分解性※ はないので、劣化してマイクロプラスチックになっていくことに変わりはない。多摩市など他市の調査から、フィルターではマイクロプラスチック発生量の４％以下しか捕捉できないことがわかっている。 全く意味のない対策だということを議会で説明したにもかかわらず、市はそれを「対策」だと繰り返した。またカラーチップの効果について市は答えられなかった。

※分解の結果、二酸化炭素と水になり、自然に還る性質

5. G7で日本は2040年までに追加的なプラスチック汚染をゼロにするという目標に合意した。「発生抑制にシフトし、人工芝が使えなくなる可能性はないか」（議員の質問）→**「事業者と進める中で一切そういう話はない」**（市の答弁）

市として国の方針を真剣に受け止める姿勢は全く見られなかった。まだ張り替えていなければ、2040年には中央公園グラウンドの人工芝は使用開始13年目となり、劣化して多くのマイクロプラスチックを排出している状態だ。その時に慌てて人工芝を剥がすのか、それとも国の方針を無視して使い続けるのか？ 将来のことを考えれば、やはり人工芝という選択はない。

議員が要望したこと
まだ決まっていないこと

多目的エリアへの散水システムやホースの設置（暑さ対策）の要望があったが、これについてはまだ決まっていない。また、これまで事実上無料で使えたことに配慮して子どもでも使える料金設定にという要望があったが、市は事業者提案の無料開放日を踏まえ、条例改正の中で検討すると答弁した。少しでも市民に使いやすい公園にするために、これからも意見を届けよう！